

【アンケートに寄せられた声より Part①】

日本共産党市議団の「新型コロナウイルス感染症アンケート」に寄せられた声の一部を、3回に分けて紹介します。

# 「受験が心配」「貯金切り崩して生活」

## 学業不安

「大学がオンライン授業で、慣れない。実習がどうなるのか不安」(20歳学生・東区)

「勉強が遅れてしまって、受験までに終わるのが心配」(15歳・港区)

「勉強が遅れることが大きい。学校での授業がしたいので学校への援助をしてほしい」(20歳学生・西区)

「生活が困難な友達にいち早く救済措置を講じて下さい。すべての人に健康で文化的な最低限度の生活を送る権利があるはず。第2波、第3波でまた(休業)要請等をする事態となったら、手厚い補償をセットしてください」(19歳大学生・北区)

## 感染心配

「私がコロナにかかった場合、お腹の中の子どもが心配」(23歳看護師・区未記入)

「クリニックに勤めているため休めない。通勤や仕事での感染リスクが心配。忙しくても給与が変わらない。生活を支える給付金がほしい」(28歳医療機関専門職・北区)

「夫は介護職、2人の子はまだ小さい。とにかく感染リスクが怖い。夫がもらってくるかも。何より命を第1優先にする政策を。職場がちゃんと経営できているか心配。医療報酬、介護報酬の引き上げを」(39歳作業療法士・北区)

「障害のある人の介助者の3密は避けられない。もし発症した場合、受け入れてくれる病院があるのか心配」(28歳福祉職・名東区)

「介護の現場は、一人でも倒れたら、途端に事業継続が難しくなります。緊急時においても事業を継続するのに不安を抱かない制度を求めます」(44歳法人職員・北区)

「患者が減って売り上げが、悪く給料が減る。調剤薬局も医療にかかわっています。マスクなどもう少し送ってほしい」(25歳調剤薬局事務・西区)

「仕事柄、在宅やテレワークでは仕事が出来ない為出社しているが、帰宅しても同居の家族がいるため、知らない間に感染を広めたりしないか不安」(36歳ガソリンスタンド勤務・千種区)

## 暮らし困窮

「ひとり親家庭です。子どもの保育園が4月上旬から5月末まで登園自粛になり、預け先がなかったため働けませんでした。わずかな貯金を切り崩し、子ども達にひもじい思いをさせないように、自分の食事を削っています。外出はせず、入浴も週3回」(30歳パートとフリーランスのWワーク・南区)

「コロナの影響でパートの契約を打ち切られました。主人の給料も減り、その上子どもが産まれます。不安でしょうがないです」(33歳主婦・港区)

「子どもが休みで食費が大幅に増え、学力低下対策のため塾の支払いも増え、これから高校進学や修学旅行代のための貯蓄もしなければいけないのに、私のパート代も減り、(貯蓄)できない」(40歳医療関係パート・名東区)

「在宅期間中は残業代が出ない、祝日に仕事をしてもお金が出ないとのことで、5月の収入が3万程減る見込みです…」(31歳会社員・北区)

「収入が半減して生活が困窮している。2度目の給付もしてほしい」(32歳会社員・南区)

「2ヶ月間丸々職場が閉店したので給料が無くなりました。6割の休業手当では水道光熱費その他支払いが出来ず、家賃を後回しに。結果退去しろと言われ、本当に困りました。10万(円)頂いても足りないんです」(22歳フリーター・中区)